

で、実質的に審査する機能を強化したいと考えています。

次に、「損害賠償の額を定めることについて専決処分を承認する」について。町の管理する道路や施設の不備が原因となる事故については、町に損害賠償責任があります。不備と事故との因果関係について、どの程度精査しているのかわかりませんが、今回は、①道路に穴が開いた所に車輪を落とし破損した事故、②交通標識が傾き車道に出張って車と接触し破損した事故、③総合運動公園テニスコートで練習中にベースライン上の人工芝が摩耗で切れていた部分に足を引っ掛けて怪我をした事故、です。

この3つの事故に共通することは、道路であれ、テニスコートであれ、日常の管理はどのように行われていたのかということです。点検や日常管理がしっかりと行われていれば、穴開きや摩耗が情報として把握され、修繕や補修が適切に行われることが期待されます。特にテニスコートベースラインの人工芝摩耗については、施設管理マニュアルや使用前後の報告書等によって把握できなかったのかという疑問があります。日報や月報などを拝見したい誘惑に駆られます。

今回の場合、事故も軽微で金額も少額でした。しかし、死亡事故に至る可能性もあり、社会経済的にも大なる損失になります。日常管理をしっかりと行い、道路等は広域にわたるということを考えると、道路パトロール等は民間の力を借りて情報把握を行う必要があります。郵便配達や宅配便業者、ヤクルト等との連携協力を行う必要があると提言しました。



丹波市春日町山王自治会の太陽光発電所

阿見町太陽光発電所計画

議会最終日（9月28日）全員協議会が開催され、執行部から阿見町が事業主体になるメガソーラー事業計画の説明がありました。計画によりますと、町内の私有地（大形地区、吉原地区）2か所約64,000平方メートル（6.4ヘクタール）で、3メガワット（3,000キロワット）の発電を行い、20年間で5億8,000万円の差引利益（平均利益約3,000万円）を見込んでいるということです。

すでに私有地所有者からは了解を得ているということで、スケジュール的には、現在の買取価格が保障される来年3月末までの申請を目指して、10月初旬に臨時議会を開催して議決、直ちにプロポーザル方式により委託業者公募を行い、その後基本設計、東京電力との系統接続検討（事前協議）、資源エネルギー庁の設備認定を得るといような計画のようです。太陽光パネル設置工事は、6月ごろから始まる予定となっています。

全員協議会で出された主な疑問・質問は以下のとおりです。①民間にできることは民間に任せるべきで、行政が積極的に取り組む事業ではないのではないか、②6月に阿見町の町有地（工業団地の調整地）を80円（平米あたり）で貸して、今度は私有地を100円で借りて町が発電事業を行うというのは、今回の計画が思いつきの政策と言われても反論できないのではないか、③経年劣化や盗難、政策の変更などのリスクがあるが対応ができるのか、④スケジュールでは今日説明して10月初旬に臨時議会を開催するというのは余りにも調査をする余裕がなく責任を持った審議ができない、⑤私有地を借り上げて事業を行うということだが、公有地の中で適地がなかったのか、どのような検討を行ったのか

今後、予定されている10月の臨時議会に向けて、私自身も議会も、十分に調査を行い20年以上という長い事業計画の成否について熟考してみたいと考えています。皆様からのご意見も頂戴いただければ幸いです。

北朝鮮による拉致被害者救出の署名にご協力ください



先日(9月15日)水戸市の県民文化センター小ホールで、北朝鮮による日本人拉致被害者を救出しようという集会が、政府が主催し茨城県と水戸市が共同で開催し行われました。私も参加してきました。笠間市議の鹿志村清一さんも参加されていました。私たちは他の方々とともに、「救う会茨城」を立ち上げた仲間です。横田夫妻とも飯塚代表とも荒木さんとも、久しぶりにお会いするのですが、残念ながら結果を出せずにいます。

会場は、満員となりこの問題への関心の高さを示していました。今年、2002年9月17日に当時の小泉純一郎首相が、北朝鮮を訪問し最高指導者である金正日が、初めて公式に国家による拉致を認めてから10年の節目の年になります。しかし、5人の拉致被害者とその家族が帰国したものの、その後、事態はこう着状態となっしまいました。

北朝鮮は、これまで拉致問題は解決済みというスタンスを取っていて、約束した再調査も真剣に行われた様子はありません。すべての拉致被害者は北朝鮮という非道の国家によって管理されているはずで、今なお不条理に耐えて日本政府による救出を、首を長くして待っているはずです。

集会では、政府を代表して拉致問題担当相の松原仁大臣、茨城県を代表して橋本昌知事、水戸市を代表して高橋靖市長がそれぞれ挨拶を行

いました。3人ともに原稿なしで自らの言葉で、力強く、解決に向けて決意表明と挨拶を行いました。特に、松原大臣が「10年目の節目に、北朝鮮の指導者が交代した機会をとらえて、あらゆる可能性を追求して解決に向けて全力を尽くす」とのメッセージを発しました。

拉致被害者家族連絡会からは、田口八重子さんのお兄さんの飯塚繁雄代表、横田めぐみさんのご両親である横田滋さん、早紀江さんから悲痛な訴えがありました。第2部の映画「めぐみー引き裂かれた家族の30年」とともに悲しみと怒り、絶対に取り戻すという決意をあらためて共有しました。

北朝鮮が何より恐れているのは日本人の世論が盛り上がることだと言われています。「忘れない」、「諦めない」、「絶対に取り戻す」、「絶対に帰ってくる」ということを背景に、北朝鮮との交渉を真剣に行う必要があります。横田滋さんは、「交渉相手・北朝鮮との約束を守ることも含めてあらゆる手段を駆使して取り戻してほしい」と直言していました。



今回の集会は、政府が主催し、茨城県、水戸市が共同して開催したのですが、阿見町の対応はどのようだったのでしょうか。議会にパンフレットの一枚も提供されませんでした。行政の人権担当者の姿も見えませんでした。北朝鮮による拉致問題は、現代のもっとも悲惨な人権問題としての認識を全自治体が持って、住民への十分な周知が必要です。家族会が集めている100万人署名も、あと80万に迫っています。署名にご協力いただける方のご連絡をお待ちしています。(090-1548-5294海野までお願いします)